

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000309		
法人名	株式会社 トミタ		
事業所名	グループホーム なかよし倶楽部		
所在地	群馬県富岡市七日市676-4		
自己評価作成日	平成28年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://bestcaregroup.jp">http://bestcaregroup.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームに入居している事で社会から離れてしまうのではなく地域の一員として暮らしていただけるように努めている。家族と離れている寂しさから不安な表情を見せる時があるので、そんな時には気分転換に外に散歩したりドライブに誘い気分転換を図っている。時としておいしい物を外で食べる事で満足していただく事もある。  
 病院から近い利便性を生かして最期まで安心して過ごせる施設を目指している。病院や訪看との連携により看取るケースが多くなって来ている。今現在暮らす利用者のほとんどがここで最期まで暮らしたいと言う希望がある、その願いを叶えるためにも家族や主治医と連携し考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念や運営方針を掲げ、事業所で暮らす利用者と職員は大きな家族と捉えて、利用者を父・母・祖父・祖母と思い、真の家族になれるよう心の通った介護を目指し、本人のみならず家族の精神面までも含めた支援に努めている。そうした支援の延長として、本人・家族が事業所での暮らしを最期まで望むならば、医師・訪問看護師と話し合い、連携を取りながら家族の協力を得て、看取り介護の取り組みをしている。日常においては、日常生活に潤いを持てるよう、好日には散歩やテラスでのお茶、季節毎の花見等で気分転換を図っている。その他、個別には利用者の買い物も多く取り入れたり、病院の帰りに喫茶店に立ち寄りたり、希望に添った外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りやミーティングの時に話し合っている。 管理者と職員間でコミュニケーションを取り、理念を共有し実践できるよう努めている	理念は、会議や申し送り時に話し合い、共有されている。事業所は、利用者及び職員は大きな家族と考え、真の家族となれるよう心の通った介護を目指して支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として祭りや清掃活動などに参加している。 近隣への散歩などで顔見知りもでき良い関係が築けている。	自治会に加入し、清掃活動に参加している。近隣の散歩や祭り・フリーマーケット等に出向き交流している。地元の中学校の運動会に招待を受けるが、参加はしていない。傾聴や歌・ギター演奏等のボランティア訪問があり、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりには出るように心がけ、折に触れ認知症の方が安心して住まう施設であると伝えている。 困り事を相談された時にはアドバイスできる体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではここに住まう住人以外にも声を掛けて開催しているが、集まりが悪いのが現状である。行事開催に合わせてお誘いし意見を頂き今後のサービス向上に役立てたいと思う。	2ヶ月毎の運営推進会議は、行事と一緒に行うことで参加者が多くなるよう設定しながら開催し、利用状況・行事・評価結果について話し合っている。会議メンバーである家族の参加が少なく、市担当者の出席がない会議もあった。今後、メンバーへ働きかけ、参加者の意見をサービスに活かして行きたいと考えている。	会議メンバーの出席しやすい日時を検討し多くの出席のもと、出された意見がサービス向上に繋がるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回のグループホーム会議が行われているので参加し意見を交わしている。 市への提出書類は窓口まで届けるようにして、担当者と顔が合わせられるようにしている。	市主催のグループホーム会議に参加し、意見交換をしている。日課の活動状況報告、空室・生活保護の書類提出や相談等で、市担当者と直接話す機会をつくり、協力関係を築くよう取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという方針を折に触れ話し合っている。利用者様のケアで悩んだ時には適時意見を交わして方向性を探している。玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、危険防止のためにに行っている。希望時は開錠し職員が付き添って外出できる体制を取っている。	身体拘束についての研修は近年受講はしていないが、話し合いをしている。玄関入口が坂になっていて、車の交通量が多い道路に面しているため、施錠をしている。入口には外が眺められるよう椅子を置き、利用者が出かける時は制止せず一緒に出かけ見守りしている。	身体拘束についての研修を受講し、あらためて研修をもとにして職員が話し合う機会となるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や普段の話し合いの中で虐待防止については考える機会を設けている。 研修会への参加はしていないが意識するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人と保佐人制度を利用している利用者がいるので、その役割などは学ぶようにしている。 同意が必要な時には後見人に連絡をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、質問に答えるようにしている。納得の上契約の締結をしている。 改正点がある時には書類をお渡し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置してありいつでも入れられるようにしている。 施設利用の家族とは面会などを利用して意見や要望を伺うようにしている。	面会時に、声をかけ意見や要望を聞いており、希望が出されると話し合い、「連絡ノート」で職員間の共有を図っている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員と話し合う時間を設け要望や意見を話すようにしている。 提案などは随時受け付け運営に反映できるようにしている。	会議は、管理者・職員の都合により随時開催し、話し合わせ、ケアや行事についての提案を活用している。毎月の代表者・管理者会議にはスタッフの意見を報告し、会議内容をスタッフに知らせている。管理者は、希望休の調整や研修受講及び資格取得について職場環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート、社員ともに勤務状況や労働時間などを把握し個々に合わせた勤務ができるよう配慮している。 実績なども把握し法人に伝えられるようにしている。。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などへの参加は勤務時間内に行えるようにしている。 個々の資格取得などに関しても応援する姿勢を伝え研修に参加できるよう時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は緩和ケアネットワークに参加し定期的に行われる研修会に参加、他施設職員との交流も図っている。 グループホーム会議も年4回行われ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者、家族と十分な話し合いを持って安心して暮らせる環境づくりができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より困っている事や不安などを伺う機会を設け、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と利用者家族が今現在困っていること、必要とすることを知り、支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員からお仕着せの介護を行うのではなく共に暮らす者同士の助け合いなども行える関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と十分な話し合いを行い共に支える方法を考えて支援をしている。家族と離れて寂しい思いをしている時には話を伺い家族とつながっていることを伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々出かけるドライブの時には住んでいた場所や知っている所などを回り、思い出を探るようにしている。 時には知り合いと出会い挨拶を交わす時もある。	散歩時に近隣の馴染みの方から声をかけて頂いたり、以前に住んでいた場所にドライブし思い出を聞いたりしている。また、理髪店に車椅子で出かけるなど、希望に添えるよう支援し、馴染みの場や人との関わりの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで時間を過ごすので利用者同士は顔見知りとなっている。コミュニケーションが苦手なトラブルになりそうな時もあるので職員は間に入り未然に防ぐようにしている。気が合わない時には席を変えるなどして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な要因で退所されるのでそのケースに合った支援を継続するよう努めている。退所した後でも困ったことがあれば相談できるような関係を続けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方や思いについては随時確認し、本人や家族の意向に沿った暮らし方できるようにしている。意向が汲み取れないケースについては本人本位に考え支援するようにしている。	意思表示が可能な方には、どうしたいか希望を聞き確認している。困難な方には、言動の様子や表情等から推察し、職員と話し合い意向を汲み取っている。また、無理強いしないように言葉かけを大切にして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や関係者から生活歴を確認し、これからの暮らし方を考えている。利用者が安心して暮らすために必要な支援を考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢も疾病も異なり一日の過ごし方は人それぞれなので、状況を見ながら支援できるよう毎日の様子を記録し現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を随時開催し介護計画を作成している。家族や本人のニーズも把握できるように面会の時など意見を交わしている。	家族からの意見を聞き、関係者の情報等を基にして、職員・ケアマネジャーは随時サービス担当者会議を実施している。長期6ヶ月・短期3ヶ月の目標設定の介護計画を作成し、毎月モニタリングが実施され、3ヶ月毎の見直しをしており、変化時は個人記録や申し送りノート等により周知され随時計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実践した内容だけではなく会話の中で聞いた事や変化なども記録し情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズには対応できるようにしている。透析に行く利用者の弁当作りや、家族に代わって申請書類を整えるなど依頼に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握し、必要な時には活用し暮らしに役立てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の時にかかりつけ医を確認し継続して必要な医療が受けられるようにしている。他に受診の必要が生じた時にはかかりつけ医に相談して受診し、その結果なども報告して病状を共有している。	希望するかかりつけ医の受診とし、職員が同行し、認知症専門医や歯科医等の受診状況を、家族や職員に報告し情報を共有している。重度化した場合は、近隣病院からの往診、毎週訪問看護師が体調管理を行い、適切な医療が受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師が不在の為、利用者個々のかかりつけ病院の医師や相談員へ連絡している。定期的な受診以外にも適時病院には職員が付き添い診療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の時には家族、相談員とも連携を取り退院に向けて支援している。急性期は病院で療養は施設で行えることを明確にし、安心して治療できるようにしている。退院後も医師と連携を取り病状変化の時には相談できるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何らかの疾病を持ち病院にかかっている方が多いので、重度化した場合は医師の説明を家族と一緒に聞き今後の方針を共に考えるようにしている。看取りを希望した場合には医師、訪問看護と連携しチームで支援できる体制を整えている。	入居時に、重度化についての指針を説明し、同意書を作成している。状態の変化の際、家族・主治医を交えて話し合い、方針を共有している。本人・家族の希望する看取りは、訪問看護ステーション・医師と連携し、家族の協力により実施している。夜間の対応等職員の精神面もサポートを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒や急変などの時には管理者に連絡し、指示を仰ぐと決めている。緊急時は救急搬送するように定期的に話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市で定めた災害時の避難場所へは徒歩で行く事ができないため、有事の際は駐車場へ避難するように定めている。隣保班での付き合いがあるので声を掛ければ駆けつけていただけるよう体制はできている。大雪の時などは近隣をも含めて除雪している。	昨年は災害訓練の計画を提出し、自主訓練の実施記録を消防署に報告している。今年度は消防署に連絡し、訓練の実施を予定している。日常的にコンセントの埃やガスの元栓に注意している。近隣宅には災害時の協力を依頼しており、大雪には近隣と共に除雪を行った。水等を備蓄している。	近隣に災害訓練の案内を呼びかけ、消防署の立会いの避難訓練を行うよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても自尊心は持っているという理解し、各々に合わせた声掛けをしている。集団生活を送っていてもプライバシーを保てるような対応をしている。	「〇〇さん」と名前や苗字にさんをつけ呼んでいる。トイレ誘導時はまわりに気がつかないように声をかけ、入浴時や居室でのおむつ交換時はドアは閉めての対応等、プライバシーを損ねないように配慮している。利用者の話題に合わせた対応を心がけ、人格を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から希望を言う人は一部となっているが、レクなど何か行う時には参加を含め希望を伺うようにしている。何をしたいかわからない人には選択肢をいくつか出して選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の理解ができない人が多い為、食事や入浴などの時間は決めているが、どのように過ごしたいと希望があればできる限り支援できるようにしている。認知症の為意思決定できない人が多いが、季節を感じたいと希望があれば適時ドライブなど楽しめるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は入浴時以外にも汚れなどに気を使い適時着替えてきれいな服装をしていただくよう支援している。パジャマと日常着への更衣も見守りや介助を行っている。男性のひげそりも毎朝支援、美容院へは必要な時に送迎支援してきれいに整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけ、テーブル拭きなどできる事は共に行っている。屋食は皆で食卓を囲み楽しく食事時間を過ごせるようにしている。	毎週、食材購入にスーパーマーケットへ利用者も一緒に出かけている。その他、一部業者からの食材と差し入れの野菜を使い、利用者の希望を聞いて職員が献立し交替で調理している。利用者は野菜の皮むき・食器拭き等を一緒に行い、昼は職員と会話をしながら、食事や行事食・おやつを一緒に作り食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は手作りでバランスの良い食事を提供できるようにしている。好みや禁止食品などある場合は把握し、適量を提供できるように心がけている。水分は必要量を提供できるように勧めている。飲食禁止と透析の為水分制限のある方には特に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は随時声掛けを行い口腔ケアを促している。自分でできない人には介助し口腔内を清潔に保つようにしている。困った時にすぐに連れて行き治療や相談をする歯科医院が近くにあり時々利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄を記録リズムを把握、適時トイレ誘導や声掛けを行っている。声のかけ方は工夫し自尊心を傷つけないような対応を行うように周知している。	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援しており、おむつ使用の方も日中はトイレに誘導し、便座に座る事で排便を促すなど、臨機応変に介助している。排泄の声かけも利用者を傷つけないように、「一緒に行きましょう」と声をかけ対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの服薬状況を職員は把握し、便秘時の対応も行っている。飲水や食事量を記録する事で個々の状況を知り必要な援助が行えるようにしている。毎日の生活の中で適度な運動も取り入れ自然な排泄を促せるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	準備や職員配置の都合で大まかな日時は決めているが、好みの時間でゆったりと入れられるように工夫している。受診や外出などがある時には随時入浴を行っている。夜間入浴の希望には個別対応している。	週2回以上の入浴は、状況や希望にあわせて入浴日を変更したり、夜間入浴をしたりして支援している。拒否する方は無く、入浴が楽しめるように湯船に浸かり職員と歌を歌ったり、ゆっくり話をしたりして、手足のマッサージを行っている。また、ゆず湯や入浴剤をとり入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣により休憩時間は異なるためその状況を把握し気分良く過ごして頂くように支援している。昼は休まない方もいるので無理強いせず気分良く過ごして頂くようにしている。夜間は室温や掛物調節により安眠していただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院・薬局と連携し薬の使用法などについても職員は把握できるようにしている。症状に変化あった時にはいつでも確認でき調節を行うよう体制は整っている。受診で服薬内容が変わった時には周知し誰でもわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や洗濯物たたみなどの作業は協力して行っていただいている。季節によっては庭の草取りや花の手入れなど見ているだけでも楽しめるように一緒に行うようにしている。暖かい季節の時には外でのお茶なども楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩の他、希望があれば外出支援を行っている。自宅の様子を気にする方には様子伺いに行き安心していただく。祭りの時は参加し地域の方のふるまう食事などいただく事もある。季節感を感じるドライブなどは時間を見て随時行っている。	日常的に近隣を散歩したり、季節には桜・梅・藤等の花見や地域の祭り・イルミネーション見物に職員の運転する車で出かけている。個別の対応では、希望に添って補聴器や日用品の購入、受診の帰りに喫茶店でのティータイムなど、家族に代わって外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では現金の所持は遠慮していただいている。金銭の事を不安に感じるときには預かっていることを伝えるようにしている。レクやドライブなどで外出した時にお金を預け自身で支払いをしていただく支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける希望があれば取り次いで会話していただくようにしている。認知症のため自ら電話を掛けることができないのが現状である。家族が外国にいたケースでは近況や写真などをメールで送り報告したケースもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は花や緑を置き季節感を感じていただけるように心がけている。ホールの天井が高く太陽光を入れることができ快適な空間を作り出している。ホールに置いた緑は仲たがいがいた時の視線を遮る役割をし、トラブルが起こらないようにしている。	ホールは大きなガラス窓と天窓から光が入り明るく、観葉植物が窓際におかれている。南面のガラス戸を開けるとベランダになっており、憩いの場所になっている。畳コーナーにはテレビやこたつが置かれ、キッチンから利用者の様子を見て話しかけられるつくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶などの時には席を決めているが、くつろげる場所も用意し自由に過ごせるようにしている。他者との関わりの中ででトラブルになりそうな時もあるのでさりげなく見守りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛用の家具やテレビなどの他にも好みのものを置き居心地良い空間が作れるよう支援している。リネン類も好みのものを使い自宅で過ごしているような雰囲気を作っている。	枕・布団やタンス等の家具類、時計が持ち込まれ、壁には帽子や自分の作品が掛けられている。テレビ好きな利用者には、ベッドから見やすいテレビの配置がされているなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の希望やニーズに合わせ、個々が安全に自立した生活を送れるように支援している。一人一人の状態をスタッフは把握し安全の見守りを行っている。		